



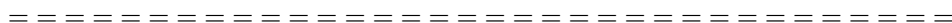
地域日本語支援ニュース こだま 第 350 号

2018.11.22



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■ともに生きる：東京都立一橋高校から■

都立一橋高校は千代田区東神田にあります。1950 年に全日制の高校として設立されましたが、2005 年からは単位制の昼夜間定時制、通信制の高校となっています。同校では、2015 年から「ワンワールド」と呼ばれる部活動が行われています。「世界」に目を向けた生徒達の活動が、どのような発展を見せているのか、同校教員の角田先生にご紹介いただきます。

.....

ワンワールドでつながろう

—都立一橋高校・多言語交流部の活動—

都立一橋高校教員 角田 仁

◆外国つながりの生徒が多い高校—居場所づくりが課題—◆

都立一橋高校は秋葉原の近くに 있습니다。江戸川区から通ってくる生徒が多く、東京では新宿区について外国籍住民が多い地域です（H30.1.1 現在東京都統計 新宿区 42,428 人 江戸川区 33,457 人）。生徒たちは中国とフィリピンが多く、日本語支援が必要な生徒は、全校生徒の 11%（67 名）にもなります。ただ中退してしまう生徒も多く課題もあります。生徒たちは授業の日本語がわからない、学校からのプリントが読めないなど日本語の壁だけでなく、友だちができず孤立し、自分に自信が持てない生徒もいるため、生徒の居場所をつくろうと思いました。

### ◆ワンワールドを立ち上げる ―学校と外部機関との連携―◆

2015年に生徒たちが集まり、一橋高校の部活動として多言語交流部（生徒たちはワンワールドと呼んでいます）ができました。部活動のプログラムを検討していくなかで、移民の若者を支援している一般社団法人kuriyaの海老原周子さんと慶応大学国際センター特任講師（当時）の徳永智子先生に相談をしました。海老原さんは移民の若者を対象としたアートプロジェクトでのご経験からコーディネートとプログラムの開発を、徳永先生には留学生（移民の背景のある留学生もいます）を投入したプログラムづくりや大学生のトレーニングをしていただくことになりました。

### ◆活動のあらまし◆

部員は、外国つながりの生徒だけでなく、日本人の生徒もいます。文化祭での発表では、ミャンマーのルーツの生徒が民族衣装やアクセサリを展示し、フィリピンの生徒たちがフィリピン各地を模造紙で紹介しました。また自己紹介のコーナーや日本語とタガログ語の比較など、多言語での展示もしました。さらにアメリカのアップルの創業者のスティーブ・ジョブスの親がシリア移民だったこと、世界で人気のスマートフォン・iPhoneは移民なしには誕生しなかったことも紹介しました。活動日は週2～3回ですが、ゲストも招きます。海老原さんの紹介で、東京ドイツ文化センターから、世界の若者をテーマにドイツの写真家のトビアス・ツィローニさん、多様性をテーマに移民の背景のあるアーティストのDJ イベクことイベク・イベクチョウルさん、シリア難民のアーティストのヒバ・アル＝アンサーリーさんを招いたワークショップもしました。生徒たちは初めてシリア難民の方と出会いました。とても貴重な経験でした。

### ◆ワンワールドがめざすもの◆

日本語がわからないなど、普段マイナスイメージで語られがちな生徒たちですが、ワンワールドでは生き生きとしています。留学生との英語での交流では、フィリピンの生徒たちは得意な英語で会話に夢中です。英語とフィリピン語、日本語がミックスされ、多言語空間が出来上がります。生徒たちの言語力と前向きな姿勢にいつも驚かされます。また日本人の生徒が英語やフィリピン語に触れることも貴重な経験です。生徒たちの言語能力や異文化経験は、高校卒業

後も役立つことでしょう。自信を持ってこれからの人生を歩んで欲しいです。小さなワンワールドの世界ですが、未来の日本の社会が見えます。学校での居場所づくりを通して、外国につながる若者と日本の若者が共に生きていくためにこれからもチャレンジしていきたいと思います。可能性と共生を学校から発信しませんか！

「ワンワールド」の活動詳細については、以下をご覧ください。

<https://medium.com/betweens-passport-initiative/engagement-program-f60e04bf6e07>

---